

# EA21 環境活動レポート

2014年度

対象期間：2014/4/1～2015/3/31

発行日：2015-07-01



# 環境方針

丸幸自動車工業は、お客様への「トータル・カーサービスを通してのお役立ち」をモットーに、日々営業活動に励んでまいりましたが、とりわけ『自然環境の維持向上に資する経営』こそが、結果として社会的利益の拡大のみならず、自社の経営基盤強化にも大いに発展をもたらすものと確信し、以下の諸活動の更なる推進を致します。

## 1. 省資源・省エネルギー活動の推進

環境負荷の低減を目指し、事業活動における電力・水等の資源、化石エネルギーの使用量の削減に努めます。また、社内外においてエコドライブを実践・広報し、CO<sub>2</sub>削減を推進します

## 2. 資源の再利用と、グリーン購入の推進

リサイクル品の活用、並びにグリーン購入を、積極的に推進します。

## 3. 化学物質使用量の削減、及び廃棄物の削減・分別処理

化学物質使用量の削減並びに廃棄物削減を推進し、分別処理を実践します。

## 4. 入庫車両の排ガス低減整備等、環境と経済性に配慮したサービス商品の提供。

自動車から排出される有害な排出ガスやCO<sub>2</sub>を削減するための「環境汚染防止整備」を推進します。また、ハイブリッドカー(HV)や電気自動車(EV)及び低燃費ガソリン車等、環境性能に優れた自動車の販売に注力します。

## 5. 環境関連法規の遵守

環境関連の諸法規及び当社が同意した各種協定を遵守します。

## 6. 継続的改善の実施

環境活動に関する目標を設定し、取組結果を見直すことにより、継続的な環境改善に取り組みます。

## 7. 環境啓発活動と地域・社会貢献活動の推進

社内外に対して、自動車に関する環境情報の提供を行い、啓発、教育活動を推進するとともに、地域社会の一員として地域・社会貢献活動の推進に努めます。

平成二十六年六月一日

丸幸自動車工業株式会社

代表取締役 阿部 修

## 1. 組織の概要と対象範囲

### 1) 事業所名及び代表者名

丸幸自動車工業株式会社

代表取締役 阿部 修

### 2) 所在地

事業所	住所	電話
本社・本社扇町店	〒983-0034 宮城県仙台市宮城野区扇町 3-8-28	022-232-5505 (代)
仙台新港店	〒983-0007 宮城県仙台市宮城野区仙台港北 1-5	022-259-8080 (代)
幸町店	〒983-0835 宮城県仙台市宮城野区大槌 9-7	022-291-1355 (代)
盛岡店	〒028-3603 岩手県紫波郡矢巾町西徳田 8-26	019-697-3620 (代)

### 3) ホームページ・メールアドレス

<http://www.lotat-marukoh.co.jp>

E-mail: [info@lotat-marukoh.co.jp](mailto:info@lotat-marukoh.co.jp)

### 4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者: 本社 総務 担当取締役 芳賀 英夫

Tel/Fax: 022-232-5508 / 022-782-7547

担当者: 本社 小型整備部 野地 哲

Tel/Fax: 022-232-5619 / 022-782-7547

### 5) 事業の内容

自動車整備・钣金塗装・新車、中古車販売・カーリース・保険代理店業務・他

### 6) 事業の規模〔平成27年4月1日現在〕

資本金 9,000 万円

社員数 78名

事業所数 4ヶ所

活動拠点	本社・扇町店	仙台新港店	幸町店	盛岡店
従業員数	33	28	4	13
敷地面積	1,674 m <sup>2</sup>	7,195 m <sup>2</sup>	172 m <sup>2</sup>	2,232 m <sup>2</sup>

### 7) 対象範囲

; 認証・登録範囲

平成 23 年度

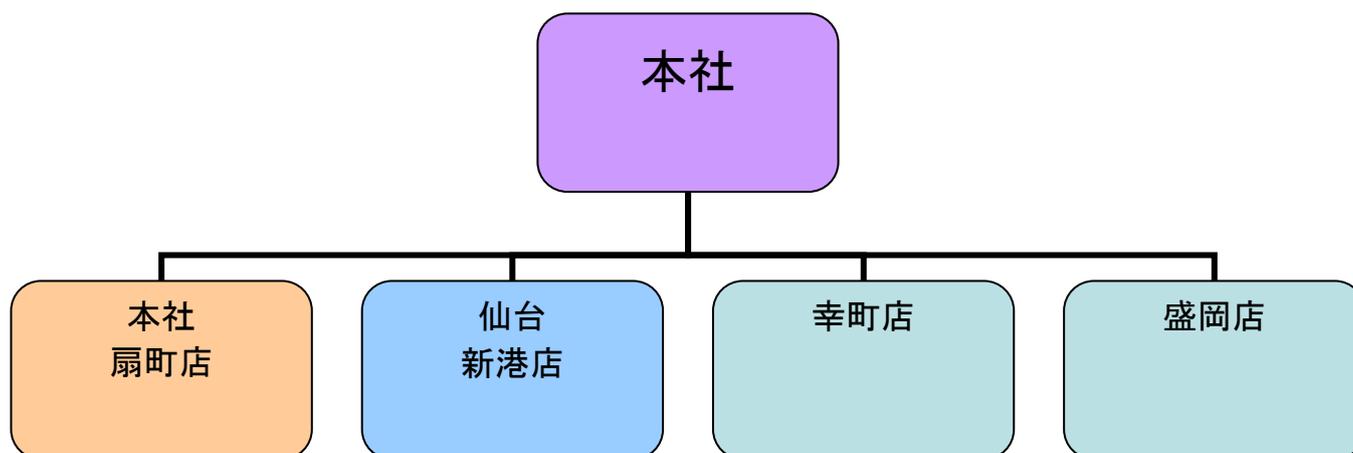
本社扇町店(整備・钣金塗装部門 17 名) 及び  
本社全部門〔経理・総務・保険含む〕、を対象とする。

平成 24 年度以降

全事業所を対象とする。

平成 25 年 9 月

岩切店を閉鎖し、幸町店に統合(=4 店舗体制に移行)。



## 2. 環境目標とその実績

### I. 今年度及び中期(3ヵ年)環境目標

#### (1) 環境負荷低減目標

- 1) **二酸化炭素排出量**については、各店舗毎に多少のバラつきはあるものの、全体としての絶対量は、対前年度実績値のみならず、前々年度実績値をも下回ったことから、27年度目標は、各店ともに対前年度実績比(-5%)と設定した。

本社扇町店 (但し、東北電力の排出係数は、0.000591t-CO<sub>2</sub>/kWhとして算出。)

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
二酸化炭素排出量(自動車用除く)	Kg-CO <sub>2</sub>	86,349	81,065	84,887	
〃 売上高当り <b>実績</b>	Kg/百万円	462	356	360	
〃 売上高当り <b>目標</b>	Kg/百万円			(342)	342
二酸化炭素排出量(自動車用含む)	Kg-CO <sub>2</sub>	140,155	134,443		
〃 売上高当り <b>実績</b>	Kg/百万円	749	590		
〃 売上高当り <b>目標</b>	Kg/百万円			(566)	
CO <sub>2</sub> 排出( <b>自動車含 26 年度実績</b> )	Kg-CO <sub>2</sub>			136,714	
〃 <b>売上高当り( 〃 )</b>	Kg/百万円			579	
〃 <b>27 年度売上高当り目標</b>	Kg/百万円				550

仙台新港店 (但し、東北電力の排出係数は、0.000591t-CO<sub>2</sub>/kWhとして算出。)

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
二酸化炭素排出量(自動車用除く)	Kg-CO <sub>2</sub>	93,667	102,917	94,176	
〃 売上高当り <b>実績</b>	Kg/百万円	140	166	170	
〃 売上高当り <b>目標</b>	Kg/百万円			(168)	162
二酸化炭素排出量(自動車用含む)	Kg-CO <sub>2</sub>	115,187	126,032		
〃 売上高当り <b>実績</b>	Kg/百万円	172	203		
〃 売上高当り <b>目標</b>	Kg/百万円			(205)	
CO <sub>2</sub> 排出( <b>自動車含 26 年度実績</b> )	Kg-CO <sub>2</sub>			115,774	
〃 <b>売上高当り( 〃 )</b>	Kg/百万円			208	
〃 <b>27 年度売上高当り目標</b>	Kg/百万円				198

幸町店 (但し、東北電力の排出係数は、0.000591t-CO<sub>2</sub>/kWhとして算出。)

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
二酸化炭素排出量(自動車用除く)	Kg-CO <sub>2</sub>	6,543	7,293	7,236	
〃 売上高当り <b>実績</b>	Kg/百万円	68	51	68	
〃 売上高当り <b>目標</b>	Kg/百万円		(65.2)	(49.0)	65
二酸化炭素排出量(自動車用含む)	Kg-CO <sub>2</sub>	8,498	9,990		
〃 売上高当り <b>実績</b>	Kg/百万円	89	70		
〃 売上高当り <b>目標</b>	Kg/百万円			(67)	
CO <sub>2</sub> 排出( <b>自動車含 26 年度実績</b> )	Kg-CO <sub>2</sub>			10,867	
〃 <b>売上高当り( 〃 )</b>	Kg/百万円			103	
〃 <b>27 年度売上高当り目標</b>	Kg/百万円				98

盛岡店（但し、東北電力の排出係数は、0.000591t-CO<sub>2</sub>/kWhとして算出。）

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
二酸化炭素排出量(自動車用除く)	Kg-CO <sub>2</sub>	45,383	47,587	43,789	
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	236	236	192	
〃 売上高当り目標	Kg/百万円		(226.5)	(226.5)	182
二酸化炭素排出量(自動車用含む)	Kg-CO <sub>2</sub>	72,407	73,184		
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	377	362		
〃 売上高当り目標	Kg/百万円			(347.5)	
CO <sub>2</sub> 排出(自動車含 26 年度実績)	Kg-CO <sub>2</sub>			67,541	
〃 売上高当り( 〃 )	Kg/百万円			296	
〃 27 年度売上高当り目標	Kg/百万円				281

- 2) 総排水量については、8頁記載の「実績合計」に明らかな通り、全体としての26年度実績値(絶対量)が、対前年度実績値を下回り、ほぼ前々年(24年)度実績値まで戻したことから、今27年度目標は、昨年同様、対前年度(26年度)実績比《-2%》と設定した。

本社扇町店

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
総排水量実績	m <sup>3</sup>	(298)	(383)		
〃 売上高当り実績	m <sup>3</sup> /百万円	(1.6)	(1.68)		
〃 売上高当り目標	m <sup>3</sup> /百万円			(1.65)	
総排水量( 26 年度実績値 )	m <sup>3</sup>			388	
〃 26 年度売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円			1.64	
〃 27 年度売上高当り目標	m <sup>3</sup> /百万円				1.61

仙台新港店

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
総排水量実績	m <sup>3</sup>	(985)	(986)		
〃 売上高当り実績	m <sup>3</sup> /百万円	(1.47)	(1.59)		
〃 売上高当り目標	m <sup>3</sup> /百万円			(1.60)	
総排水量( 26 年度実績値 )	m <sup>3</sup>			966	
〃 26 年度売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円			1.74	
〃 27 年度売上高当り目標	m <sup>3</sup> /百万円				1.70

## 幸町店

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
総排水量実績	m <sup>3</sup>	(46)	(55)		
〃 売上高当り実績	m <sup>3</sup> /百万円	(0.48)	(0.38)		
〃 売上高当り目標	m <sup>3</sup> /百万円			(0.37)	
総排水量( 26 年度実績値 )	m <sup>3</sup>			47	
〃 26 年度売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円			0.44	
〃 27 年度売上高当り目標	m <sup>3</sup> /百万円				0.43

## 盛岡店

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 26 年
総排水量実績	m <sup>3</sup>	(212)	(228)		
〃 売上高当り実績	m <sup>3</sup> /百万円	(1.10)	(1.13)		
〃 売上高当り目標	m <sup>3</sup> /百万円			(1.10)	
総排水量( 26 年度実績値 )	m <sup>3</sup>			221	
〃 26 年度売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円			0.97	
〃 27 年度売上高当り目標	m <sup>3</sup> /百万円				0.95

## 3) 廃棄物の削減

廃棄物処分の排出総量は、全体としては微減(=対前年の絶対量比較で、-2%弱)にとどまったものの、本社扇町店に於いて、有価物処理促進などの削減効果もあり、対前年度実績比 30%減(絶対量)と、大幅な減少実績を得た。依って、本年度の活動目標は各店共に、対前年度実績比《 -10% 》と設定した。

## 本社扇町店

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
廃棄物総量実績	Kg	15,390	17,550		
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	82.4	77.0		
〃 売上高当り目標	Kg/百万円			(75.5)	
廃棄物総量( 26 年度実績値 )	Kg			12,240	
〃 26 年度売上高当り	Kg/百万円			51.8	
〃 27 年度売上高当り目標	Kg/百万円				49.2

## 仙台新港店

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
廃棄物総量実績	Kg	13,900	7,750		
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	23.9	12.5		
〃 売上高当り目標	Kg/百万円			(12.2)	
廃棄物総量( 26 年度実績値 )	Kg			13,800	
〃 26 年度売上高当り	Kg/百万円			24.9	
〃 27 年度売上高当り目標	Kg/百万円				22.4

盛岡店

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
廃棄物総量実績	Kg	12,980	2,740		
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	67.6	13.6		
〃 売上高当り目標	Kg/百万円			(13.3)	
廃棄物総量( 26 年度実績値 )	Kg			1,550	
〃 26 年度売上高当り	Kg/百万円			6.79	
〃 27 年度売上高当り目標	Kg/百万円				6.2

4) 化学物質の削減

「化学物質使用量」については、昨年度に引き続き使用塗料の種類変更や、塗料メーカー自体の従来品の改善などが重なり、当初の予測をはるかに上回る、大幅な数値減少を達成することができた。

但し実績的には、現状がほぼ下限に近いと考えられることから、次年度以降は総量的な管理に切り換え、あえて具体的な数値目標は設定しないこととした。

本社扇町店のみ

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
化学物質総量実績	Kg	335	76	2.2	
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	1.79	0.33	0.009	
〃 売上高当り目標	Kg/百万円				—

(2) 自らが生産・販売・提供する製品、及びサービス

エコ整備・エコ車検等の環境汚染防止整備については、ハイブリッド車などの、いわゆる「エコカー」の急速な普及に伴い、相対的な需要逡減は避けられなくなってきた。

しかしながら、「当社の独自性の訴求」という観点からは、あくまで市場ニーズのある限りこれを続けるべく、新年度に於ける年度目標を実状に合わせ、『5%以上』として設定した。

本社扇町店

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
整備総売上実績	百万円	(121)	(126)		
上記の内、環境汚染防止整備売上実績	%	(7.2)	(7.6)		
〃 目標	%	(10.0)	(10.0)	10.0	
整備総売上( 26 年度実績値 )	百万円			130	
環境汚染防止整備売上( 〃 )	%			6.4	
〃 27 年度目標	%				5.0

(3) 資源の再利用(リサイクル品の活用)、及びグリーン購入の促進

リサイクル部品の利用実績については、各店舗とも全体目標とするところの 9%ライン(購入比率目標)になかなか届かないが、昨年度の実績額及び実績比は、いずれも着実に向上していることから、従来通り当面の最終目標をそのまま据え置き、その必達を目指したい。

本社扇町店

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
リサイクル部品購入実績額	百万円	4.4	4.7	5.8	
部品総購入額に占める実績比率	%	6.2	6.0	6.8	
リサイクル部品 購入比率目標	%	(7.4)	(9.0)	(9.0)	9.0
エコマーク商品(社内使用実績額)	百万円	0.11	0.05	0.10	
“ 購入実績比率	%	0.15	0.06	0.12	
“ 購入比率目標	%				4.9

仙台新港店

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
リサイクル部品購入実績額	百万円	6.4	5.9	7.4	
部品総購入額に占める実績比率	%	6.7	5.5	5.9	
リサイクル部品 購入比率目標	%	(7.4)	(7.4)	(5.0)	7.0

盛岡店

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
リサイクル部品購入実績額	百万円	1.0	1.4	2.35	
部品総購入額に占める実績比率	%	1.4	1.9	3.2	
リサイクル部品 購入比率目標	%	(7.4)	(7.4)	(7.4)	7.4

## II. 目標の達成状況 ( 本社を含む4店舗実績合計 )

各店における環境負荷の合計値を算出したところ、次のようになった。

項 目	単 位	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
二酸化炭素排出量(自動車除く)	Kg-CO <sub>2</sub>	237,002	238,862	230,088
売上高当り	Kg/百万円	191	200	205
二酸化炭素排出量(自動車含む)	Kg-CO <sub>2</sub>	339,641	343,649	330,896
売上高当り	Kg/百万円	273	288	294
水使用量	M <sup>3</sup>	1,621	1,652	1,622
売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円	1.3	1.4	1.4
廃棄物処分量	kg	42,270	28,040	27,590
売上高当り	Kg/百万円	34	24	27
化学物質使用量(扇町店のみ)	kg	334.5	76.2	2.2
売上高当り	Kg/百万円	1.79	0.33	0.0093

環境負荷の内訳は次の通りである。

( I ) 二酸化炭素排出量

本社扇町店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
購入電力	Kg-CO <sub>2</sub>	53,064	72,272	66,082	68,358
灯油	Kg-CO <sub>2</sub>	12,308	13,631	14,625	16,145
LPG	Kg-CO <sub>2</sub>	419	446	358	384
CO <sub>2</sub> 排出量(自動車を除く)合計	Kg-CO <sub>2</sub>	65,791	86,349	81,065	84,887
自動車用燃料・ガソリン	Kg-CO <sub>2</sub>	23,291	45,384	41,319	40,395
自動車用燃料・軽油	Kg-CO <sub>2</sub>	14,665	8,422	12,059	11,432
CO <sub>2</sub> 排出量(自動車を含む)合計	Kg-CO <sub>2</sub>	103,746	140,155	134,443	136,714

仙台新港店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
購入電力	Kg-CO <sub>2</sub>	49,937	73,118	80,011	67,084
灯油	Kg-CO <sub>2</sub>	17,329	19,218	21,493	26,452
LPG	Kg-CO <sub>2</sub>	1,059	1,332	1,413	639
CO <sub>2</sub> 排出量(自動車を除く)合計	Kg-CO <sub>2</sub>	68,326	93,668	102,917	94,176
自動車用燃料・ガソリン	Kg-CO <sub>2</sub>	18,566	20,953	20,890	20,250
自動車用燃料・軽油	Kg-CO <sub>2</sub>	11,235	566	2,225	1,349
CO <sub>2</sub> 排出量(自動車を含む)合計	Kg-CO <sub>2</sub>	103,746	115,187	126,032	115,774

幸町店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
購入電力	Kg-CO <sub>2</sub>	6,076	6,065	7,113	7,112
灯油	Kg-CO <sub>2</sub>	668	302	0	0
LPG	Kg-CO <sub>2</sub>	162	177	180	124
CO <sub>2</sub> 排出量(自動車を除く)合計	Kg-CO <sub>2</sub>	6,906	6,544	7,293	7,236
自動車用燃料・ガソリン	Kg-CO <sub>2</sub>	1,706	1,799	2,644	3,631
自動車用燃料・軽油	Kg-CO <sub>2</sub>	265	155	53	0
CO <sub>2</sub> 排出量(自動車を含む)合計	Kg-CO <sub>2</sub>	8,877	8,498	9,990	10,867

盛岡店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
購入電力	Kg-CO <sub>2</sub>	23,137	31,107	34,894	35,561
灯油	Kg-CO <sub>2</sub>	14,702	14,264	12,684	8,210
LPG	Kg-CO <sub>2</sub>	17	12	9	17

CO <sub>2</sub> 排出量(自動車を除く)合計	Kg-CO <sub>2</sub>	37,857	45,383	47,587	<b>43,789</b>
自動車用燃料・ガソリン	Kg-CO <sub>2</sub>	21,204	16,732	15,328	<b>13,454</b>
自動車用燃料・軽油	Kg-CO <sub>2</sub>	12,938	10,292	10,269	<b>10,298</b>
CO <sub>2</sub> 排出量(自動車を含む)合計	Kg-CO <sub>2</sub>	71,998	72,407	<b>73,184</b>	<b>67,541</b>

(Ⅱ) 廃棄物処分量

本社扇町店

項 目		単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
	廃塗料・廃シンナー	Kg	0	0	0	0
	廃プラスチック類	Kg	2,990	2,750	3,030	<b>2,460</b>
	金属くず	Kg	9,540	7,320	6,020	<b>6,020</b>
	タイヤ	Kg	3,670	4,720	7,740	<b>2,870</b>
	廃油	Kg	1,050	600	760	<b>630</b>
産業廃棄物処分量合計		Kg	17,250	15,390	<b>17,550</b>	<b>12,240</b>

仙台新港店

項 目		単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
	廃塗料・廃シンナー	Kg	0	0	0	0
	廃プラスチック類	Kg	1,440	10,030	750	<b>1,400</b>
	金属くず	Kg	8,190	2,970	6,100	<b>9,210</b>
	タイヤ	Kg	0	0	0	0
	廃油	Kg	400	900	900	<b>1,200</b>
産業廃棄物処分量合計		Kg	10,030	13,900	<b>7,750</b>	<b>13,800</b>

盛岡店

項 目		単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
	廃塗料・廃シンナー	Kg	0	0	0	0
	廃プラスチック類	Kg	600	1,680	1,840	<b>1,550</b>
	金属くず	Kg	2,800	1,640	0	0
	タイヤ	Kg	0	0	0	0
	廃油	Kg	9,400	9,660	900	0
産業廃棄物処分量合計		Kg	12,800	12,980	<b>2,740</b>	<b>1,550</b>

(Ⅲ) 化学物質使用量( 本社扇町店のみ )

項 目		単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 25 年
	亜鉛化合物	Kg	1.2	9.2	12.0	0
	エチルベンゼン	Kg	100.0	96.0	15.6	<b>0.2</b>
	キシレン	Kg	220.0	200.0	41.8	<b>1.2</b>

	トリメチルベンゼン	Kg	3.65	4.3	1.5	0.1
	トルエン	Kg	36.0	25.0	4.3	0.7
	その他	Kg	0.05	0	1.0	0
化学物質使用量合計		Kg	361.0	334.5	76.2	2.2

(IV) 資源利用量(主要三店舗)

本社扇町店

項目		単位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
水	上水道	m <sup>3</sup>	363	298	383	388
	水使用量合計	m <sup>3</sup>	363	298	383	388

仙台新港店

項目		単位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
水	上水道	m <sup>3</sup>	927	985	986	966
	水使用量合計	m <sup>3</sup>	927	985	986	966

盛岡店

項目		単位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
水	上水道	m <sup>3</sup>	250	212	228	221
	水使用量合計	m <sup>3</sup>	250	212	228	221

(2)リサイクル部品、及びグリーン購入(エコマーク商品)購入率

本社扇町店

項目	単位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
部品購入額	百万円	97.7	71.5	78.3	85.3
リサイクル部品購入額	百万円	5.7	4.4	4.7	5.8
リサイクル部品購入比率	%	5.8	6.2	6.0	6.8

エコマーク商品購入総額	百万円	0.06	0.11	0.05	0.10
グリーン購入・購入比率	%	0.06	0.15	0.06	0.12

仙台新港店

項目	単位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
部品購入額	百万円	103.1	95.5	108.1	125.4
リサイクル部品購入額	百万円	6.7	6.4	5.9	7.4
リサイクル部品購入比率	%	6.5	6.7	5.5	5.9

### 盛岡店

項目	単位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
部品購入額	百万円	80.0	71.4	75.1	76.0
リサイクル部品購入額	百万円	0.8	1.0	1.4	2.4
リサイクル部品購入比率	%	1.0	1.4	1.9	3.2

### (3) 環境汚染防止整備の推進

#### 本社属町店のみ

項目	単位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
整備総売上	百万円	123	121	126	130
環境汚染防止整備売上金額	百万円	9.3	8.7	9.6	8.3
環境汚染防止整備売上比率	%	7.6	7.2	7.6	6.4

### (4) 「エコカー」販売の推進

#### 幸町店

	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
( A ) 総販売数	台	78	66	76	93
( B ) エコカー販売数	台	29	28	25	19
構成比 ( B / A )	%	37. 2	42. 4	32. 9	20. 4

#### 旧2店舗合計数

	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
( A ) 総販売数	台	205	186	116	93
( B ) エコカー販売数	台	32	41	27	19
構成比 ( B / A )	%	15. 6	22. 0	23. 3	20. 4

### Ⅲ. 環境目標の責任者及び担当者

項目	27 年度目標	担当者	責任者
二酸化炭素排出量削減	26年度比-4%	EA21 工場エリア責任者	本社総務 担当取締役
水使用量削減	26年度比-2%	EA21 二階フロア責任者	
エコ整備の推進	年間整備売上の10%	EA21 整備推進者	
リサイクル部品購入推進	部品購入比 7.4%以上	EA21 一階フロア責任者	

グリーン購入の推進	部品購入比4.9%以上	EA21 一階フロア責任者
廃棄物の削減	26年度比-2%	EA21 工場エリア責任者
化学物質の削減	26年度比-6%	EA21 工場エリア責任者
エコカー販売	幸町店(50%)	EA21 各店エリア責任者
社会貢献活動	インターショップの積極受け入れ	小型整備部長、総務部長

### 3. 主要な環境活動計画の内容

#### 1) 二酸化炭素の削減

- ① 昼休み及び不在時の照明消灯及び減灯。
- ② コピー機、パソコン等OA機器は極力待機電力とする。
- ③ 室内空調は、夏期は26度、冬期は23度とする。(エアコンの修繕)
- ④ LPガス(給湯器)の夏季使用の停止。
- ⑤ 残業を減らし、無駄な居残りはしない、させない。

#### 2) 水使用量の削減

- ① トイレ等の水量を最小に設定。
- ② 洗車業務の標準化。(洗車マニュアルを作成)

#### 3) エコ整備の推進

- ① 排出ガス低減、省燃費に有効なエコ整備・エコ車検の店頭説明による積極的販売。
- ② エコ整備メニューの拡大、商品化(タイヤ・バッテリー等)。
- ③ オイル祭、チラシ等での広報活動。
- ④ エコ整備担当メカニックを選任する。

#### 4) リサイクル部品購入、及びグリーン購入の推進

- ① リサイクルパーツ、及びエコマーク商品の積極的使用。
- ② 見積段階でお客様へリサイクルパーツ修理の提案。(リサイクルチラシの作成)
- ③ 新品部品とリサイクル部品の価格比較表の作成。

#### 5) 廃棄物の削減

- ① 紙類の分別回収による再資源化。
- ② 弁当類の容器持ち帰り。
- ③ 生ごみの分別、持ち帰り。
- ④ 金属類の分別回収、アルミの再資源化。
- ⑤ プラスチック(バンパー類)の再資源化の推進。
- ⑥ 廃オイルの有価処理(売却)化。

#### 6) 化学物質の削減

- ① 作業上の1回当り塗料使用量の平準化(=作業担当者ごとの使用量のムラを無くす)。

- ② 低溶剤の使用推進。
- ③ 塗装ブース内のフィルター交換(=工場内の大気汚染防止)。

#### 7) エコカー販売の推進

- ① ハイブリッド車、及びEV車(電気自動車)の積極販売。
- ② 低燃費ガソリン車(主に軽自動車)の積極販売。

#### 8) 環境啓発活動と、社会貢献活動の推進

- ① 自動車整備振興会主催「無料マイカー点検講習」への講師派遣。
- ② 国交省東北運輸局主催「違法改造車等街頭検査」への立会い参加。
- ③ 高校生等を対象とするインターンシップ(職場体験学習)の積極的受け入れ。

## 4. 26年度環境活動の取組み結果の評価

### 1) 二酸化炭素排出量削減

#### (I)「電力等」自動車関係を除いた場合

26年度の4店舗合計の絶対量数値は、この3年間の中では最も低い数値(=対前年度比 **3.7%減**)を示した。これは各店共に、意識的に電力削減に力を注いできた活動の現れだと思う。

反面、整備現場に於いては、『工場内』の作業とはいえ、各店ともほとんど屋外に等しい外気の中での整備業務となることから、冬場の灯油使用が増加傾向となることは避けられず、この点が今後の削減課題として、次年度以降に繰り越される結果となった。

#### (II)「ガソリン等」自動車関係を含めた場合

4店舗合計の実績値は、上記(I)と同様、この3年間の中での最も低い値を記録した(=対前年度比 **3.7%減**)。

これは、主要3店舗(本社扇町店、仙台新港店、盛岡店)のいずれもが、「ガソリン・軽油」共に減少させたことと無縁ではなく、今後とも環境意識の醸成を図りつつ、こうした基調を維持して行きたいと考える。

### 2) 水使用量の削減

4店舗合計の水使用量は、何とか前々年度の実績値と、ほぼ同水準に戻すことができた(=対前年度実績比 **2%減**)。

これは、新港店の削減努力に負うところが大きく、結局、同店の削減数値が、そのまま全体の削減数値に直結する結果となった。全店舗の、通年での節水励行を定着させて行きたいと思う。

### 3) 環境汚染防止整備と、エコカー販売の推進

HV車(ハイブリッドカー)や、EV車(電気自動車)のみならず、低燃費ガソリン車の普及により、当社が推進してきた「エコ整備」(=環境汚染防止整備)の市場ニーズの急速な低下は、もはや否めなくなってきた。

しかしそうした一方で、「当社の独自性」や「技術の伝承」といった観点からは、何等かの形で「エコ整備」のノウハウを次代に残したいと考える。

「エコカー販売」については、中古車販売の増加から、絶対数(台数)・割合ともに低水準に終わった。

新年度に於いて、是非巻き返しを図りたい。

#### 4) リサイクル部品の購入、及びグリーン購入の推進

リサイクル部品の使用実績は、いまだに整備使用部品全体の僅か **6%**にも満たない割合(=主要3店舗の26年度実績比率;**5.4%**)ではあるが、毎年確実に購入実績額を伸ばしており、その経済的合理性はもとより、環境面への配慮からも、今後益々力を入れて行かなければならない分野ではないかと考えている。

またグリーン購入については、依然として主に文具類の購入管理にとどまっているが、もっとダイナミックな形で当社の取扱い商品の中に活動展開ができないか、いま一度掘り下げて考えるべきと思う。

#### 5) 廃棄物の削減

廃棄物の処分量については、昨年度(25年)極めて大幅な減少を見たが(⇒3店舗合計、対前年度(24年)実績比;33.6%減)、今年度(26年)はその反動もあつてか、《対前年比、ほぼ横這い=1.1%減》という結果になった。

有価物(リサイクル品)扱いとしての処理には限界もあり、今後大きく処分量を減少させることは難しいかもしれないが、粘り強い削減姿勢を全店舗に定着させて行きたい。

#### 6) 社会貢献活動

本年度も8月に、例年通り高校生のインターンシップ(職場体験学習)を受け入れ《=仙台工業高校・機械科2年生、3名》、本社扇町店を中心に、新港店(～工場見学のみ)、及び幸町店(テレビアクション見学等)も使って、5日間の日程にて実施した。

受入れ3年目を迎え、社員一人一人がこの時期を心待ちにするようになってきたこと、そして自己研鑽意欲とともに社会貢献意識も顕著になってきたことなど、多くのプラス効果を実感することができる。

また3月には、宮城県立仙台高等技術専門校からの要請で、同校の自動車整備課学生(1年生)20名に対し、『職業講話』(～自動車整備業界、及び自動車整備士についての説明・紹介など約1時間)を行なった。(⇒後日、受講生全員からの感想文が寄せられ、当社担当者は感激! )。

尚、宮城・岩手両県の自動車整備振興会主催「マイカー無料点検サービス」、及び「街頭検査立会い」(宮城県警及び宮城運輸支局への協力)などには、今年も積極参加を行なった。

#### 7) 総合評価

この1年の結果(成果)は、8頁に記載した『環境負荷の合計値』一覧に端的に現れていると思う。

実に、全ての環境負荷項目について、その絶対量が前年度実績を下回ることができた。

これは、全店舗でのエコ活動が3年目を迎え、それぞれ日常業務の中に、「エコ意識」が自然に定着してきたことの、何よりの証左ではないかと考える。

とは言いながらも、CO<sub>2</sub>削減実績は、前年対比で僅か4%弱に過ぎない訳であり、当然これから先も増減の繰り返しが続くものと考えざるを得ない。引き続き各店毎の工夫で、改善の促進を図ることが肝要と思う。

### 5. 次年度の取組内容

CO<sub>2</sub>を始めとする環境負荷項目の削減については、ようやく足並みが揃ってきた様に思う。依って、新年度は、より分かり易い「エコ活動」を企画して行きたいと思う。

電力削減を例にとれば、社内向けには出来るだけ“金額表示”で使用量の増減を示すなど、少しでも皆に面白味を感じてもらえるような方向付けが不可欠ではないか。

またその一方で、「社会貢献活動」のように『削減』ではなく、逆に社会に向け何かを『積み重ねて行く』という活動は、今後益々広義の環境活動として、この「エコ活動」を支え活性化に導くものになるのではないかと考えている。

## 6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

### 1) 適用となる主な環境関連法規

法律等の名称	該当する活動
道路運送車両法 騒音・振動規制法	法定点検、及び整備作業時における検査業務
自動車リサイクル法	自動車におけるシュレッダーダスト、フロン類、エアバック類の適正処理 及びリサイクルの促進
廃棄物処理法	廃棄物の抑制、適正処理、生活環境の清潔、公衆衛生の向上等
水質汚濁防止法	工場・事業場からの公共用水域への排出、地下水への浸透
消防法	防火設備の定期点検、管理者の任命、消防訓練の実施、及び左記事項に関する、 消防署への報告書届け出。
労働安全衛生法	板金塗装業務担当社員に対する、「特殊健康診断」(有機溶剤等健診)の実施。

### 2) 違反、訴訟等

環境関連法令順守状況チェックの結果、環境関連法規への違反は無し。

また、違反について関係機関等からの指摘は特に無く、また、訴訟も同様に一件も無かった。

## 7. 代表者による全体評価と、見直しの結果

“一進一退”を繰り返しているようでも、1年毎に過去を振り返ってみると、例えどの様な形にせよ活動の歩みを止めない限り、着実な前進は必ず得られるのだということを実感する。

『継続は力なり』という言葉があるが、「エコアクション21」への取り組み開始以来、満10年を重ねるに至ったが、実は全社で本格的にこの活動に取り組むようになったのは、その内後半の僅か3年に過ぎない。

いかにも遅々とした歩みではあるが、同時に逆説的に、続けることの大切さを改めて教えられる思いがする。この26年度に於ける「環境負荷項目」の全般的な削減や、高校生のインターンシップの受け入れ及び専門学校での出張講習などの社会貢献活動も、全て社員一人一人の意識の中に着実に育まれてきていることを、嬉しく感じ取ることができる。

これからも皆で、“楽しく、分かり易い”エコ活動を進めて行ければ、と願っている。

( 以 上 )